

第8回ひと咲きまち咲きあまがさき創生本部 議事録

日 時：10月22日（木） 16：00～17：00

場 所：尼崎市役所議会棟2階 議員総会室

1. 開会

座 長： 皆さんにご協力いただきながら策定作業を進めてきた「尼崎人口ビジョン及び「尼崎版総合戦略」については、パブリックコメントも終了し、本日の創生本部にてその内容を確定させることになる。

まずは、パブリックコメントや有識者との意見交換でいただいた意見などを踏まえ、素案から変更した点があるので、事務局より説明をお願いします。

2. 【付議案件1】市民意見公募手続結果の概要について

【付議案件2】尼崎版総合戦略等の素案からの修正点について

【付議案件3】尼崎人口ビジョン及び尼崎版総合戦略（案）について

事務局より資料説明

座 長： パブリックコメントでいただいた意見、有識者との意見交換会でいただいた意見、その双方を勘案し変更した最終案を見て、ご意見があれば自由に発言をして頂きたい。

委 員： 総合戦略19ページの「現在新たな展開を見せている主な取組」に「旧聖トマス大学跡地の活用」と記述があるが、これは手段を示すものであり、他の記述と比べて少し違和感がある。

事務局： 今後、具体的に尼崎市の創生に資する取組の舞台として活用していく予定であるが、現時点では具体的な用途を記載できる段階ではないため、こうした表現としている。

座 長： 他の取組は中身の方向性であるのに対し、この項目は単に場所の話になっている。「跡地を活用した学びの拠点づくり」みたいな記述は現時点では難しいのか。

委 員： 聖トマス大学も梅香小学校も跡地利用について用途地域上の課題があり、柔軟な活用を実施していくために市の上位計画に位置付ける必要があると聞いて

いるが、その上位計画はこの総合戦略なのか、それとも立地適正化計画なのか。

事務局： 総合戦略（戦略パッケージ）に記載していく方向で担当部局と調整を行った。

委員： 聖トマス大学の施設を活かしたまちづくり、梅香の施設を活かしたまちづくりのように表現をしたらどうか。

座長： 表現に関しては「大学跡地を活かしたまちづくり」でよいと思う。

また、「現在新たな展開を見せている主な取組」については、国の制度変更などにより、他都市でも実施されるような取組ではなく、本市が特に注力しているようにしている「シティプロモーション」が前面に出るよう表現してほしい。

座長： 「現在新たな展開を見せている主な取組」に記載されている「インバウンド」の記述については、本文では特に言及していない。

民泊特区などの取組を実施している自治体もあるが、本市はそこまで注力しているわけではない。交流人口や昼間人口については言及しているので、ここにあえて「インバウンド」を記載しなくてもよいのではないか。

事務局： 総合戦略パッケージには、「外国人の市内ホテル宿泊者数」という重要業績評価指標を設定しており記載したものの。

座長： 今後、シティプロモーションの取組として外国人観光客を対象にしたパンフレットを作成していくが、具体的にどのような効果を求めていくのかという目的意識をきちんと持つておかないといけない。

市内の宿泊施設において外国人の利用者が増加している傾向はあると聞いてはいるが、ブームだからといってお金を投下するのではなく、やれることから考えていけばよいのではないか。

委員： 「現在新たな展開を見せている主な取組」において、太字と細字の記載があるが、これは意識的なものか。

事務局： より重点的と思われるものを太字にしている。

座長： ここに記載されている取組については、すべて重要な事柄という考えである

から、表現に優劣をつけずに統一した記載にする。

委員： 20 ページの図において政策分野「⑤シビックプライドの醸成」は木の根として、「⑥よりよい住環境の創出と都市機能の適正化」は土壌として表現されているのか。

事務局： そのとおりである。

委員： 20 ページの図に関しては、あくまでイメージなので受け手が各自で解釈すれば良いのではないか。

委員： 私はシビックプライドも新しいタイプのハードであり土台だと考えている。総合戦略の進捗管理のなかで、この表現方法はまた見直されていくのだと思うが、どのタイミングを考えているのか。例えば2年後の後期総合計画の策定についてはどうか。

事務局： 後期総合計画については、次年度から策定に向けた検討を開始する予定である。その際は、この総合戦略と一体化させるイメージで策定作業を進めていこうと考えている。

委員： 後期総合計画の策定に際し、この総合戦略も時点修正の可能性があるとの理解でよいか。

座長： その通りである。総合戦略の策定に際し行った議論を、後期総合計画の策定に反映させるところもある。土壌の部分で表現されている「⑥よりよい住環境の創出と都市機能の適正化」といったハードの部分の後期総合計画においてどのように盛り込むかが課題であると考えている。後期総合計画は、総務局や資産統括局も含めたすべての部局の取組が記載されるべきであると考えている。

もうひとつの課題は「まちづくりの進め方」といったような市役所の意識改革のような項目も必要だ。有識者との意見交換などでも、職員の意識改革については必ず話題となり、職員に対する期待が大きいと感じている。

顧問： 市役所内部にも総合計画のようなものが必要なのではないか。

座 長： 自己認識として口にしていううちに内面化される部分もある。市民自治条例でそういったことを議論している。

「一人ひとりが成長し、活躍する」といった「ひと咲き」の概念に、職員の側の要素も入れていかなければならない。私たち行政も主語になって進めていかないと、上から目線になってしまう。

具体化はこれから進めていくことになるが、職員の意識改革につながるようなことができれば良いかもしれない。100周年を契機に考えればいいと思う。そういった意味でも、後期総合計画の策定において人材育成を担当している総務局の役割は重要である。

委 員： 前期総合計画の策定時には、人口について具体的な目標を示さないのかといった質問が多くあったが、今回、人口ビジョンで具体的に示そうとしている。しかし、人口が減少する推計に対しての拒否反応はなかったように感じる。

座 長： 今後は、人口縮小時代にどう対応するかという財政上の分析・検証も一緒にやっていくべきである。後期総合計画の策定に際しては、プロジェクトの検証も併せて実施していく。

尼崎人口ビジョン及び尼崎版総合戦略については、本日いただいた意見を勘案し、私と事務局による責任校正をさせていただいたものをもって、国に報告をさせていただく。

3. その他

事務局： 総合戦略の策定については、10月27日に総務消防委員協議会にて報告の後、10月末日までに国および県に報告する。また、パブリックコメントの手続きに則り市報・市ホームページに掲載する。

以 上